

# 第104回定時株主総会招集ご通知に関するの インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(2020年7月1日から2021年6月30日まで)

## 伏木海陸運送株式会社

「連結注記表」および「個別注記表」につきましては、法令および  
当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサ  
イト（アドレス<https://www.fkk-toyama.co.jp>）に掲載することに  
より株主のみなさまに提供しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

子会社のうち次に示す12社を連結の範囲に含めております。

伏木貨物自動車株式会社	北陸日本海油送株式会社
F K Kエンジニアリング株式会社	北陸太平洋物流株式会社
F K Kツアーズ株式会社	高岡鉄道産業株式会社
チューゲキ株式会社	山口株式会社
丸共シーランド株式会社	山口ニット株式会社
大洋住宅株式会社	北陸海事株式会社

子会社のうち株式会社伏木ポートサービス及び伏木富山港港湾運送事業協同組合は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等はいずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲に含めておりません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

関連会社のうち次に示す4社に持分法を適用しております。

新光硝子工業株式会社	日本海産業株式会社
新湊観光開発株式会社	氷見観光開発株式会社

非連結子会社（株式会社伏木ポートサービス及び伏木富山港港湾運送事業協同組合）並びに関連会社のうち富山県対岸貿易協同組合はそれぞれ当期純利益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲に含めておりません。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結の範囲に含める子会社12社の決算日は、6月30日で連結決算日と一致しております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### (a) その他有価証券

時価のあるものは当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないものは移動平均法による原価法により評価しております。

##### (b) 棚卸資産

製品・仕掛品・原材料は主に移動平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

その他については、最終仕入原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(a) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	15～38年
機械装置	10年

(b) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(c) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ 重要な引当金の計上基準

(a) 賞与引当金

連結子会社の一部は従業員の賞与の支給に備えるため支給見込額に基づき計上しております。

(b) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(c) 役員退職慰労引当金

当社及び連結子会社の一部は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(d) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(e) 製品保証引当金

販売した住宅に対するアフターサービス及びクレーム費用の支出に備えるため、過去の実績に将来の見込みを加味した金額を計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当期末において発生していると認められる額を計上しております。

(a) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

(b) 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生の翌連結会計年度に一括費用処理しております。

(c) 小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

## 2. 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度から適用し、連結注記表に（会計上の見積りに関する注記）を記載しております。

## 3. 会計上の見積りに関する注記

### (1) 固定資産

#### ① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繊維製品製造事業に係る有形固定資産 821,753千円

繊維製品製造事業に係る無形固定資産 7,716千円

#### ② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社グループでは、子会社である山口ニット株式会社において繊維製品製造事業を行っております。

当該事業では、新型コロナウイルス感染症の影響から受注が大きく減少し、営業活動から生ずる損益のマイナスが継続しており、当該事業に係る資産グループに減損の兆候があります。このため、当社は当該子会社の経営者によって承認された事業計画を基礎に割引前将来キャッシュ・フローの総額を見積り、減損損失の認識の判定を実施しましたが、結果、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が固定資産の帳簿価額を上回ったため、減損損失は認識しておりません。

割引前将来キャッシュ・フローの基礎とした事業計画における事業別の売上高予測、変動費率予測、固定費予測及び設備投資予測には新型コロナウイルス感染症の収束時期も含めた市場の景気変動などの不確実性、重要な仮定や判断を伴うため、実績が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において減損損失を計上する可能性があります。

### (2) 長期貸付金

#### ① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

関連会社である氷見観光開発株式会社に対する当社の長期貸付金 145,000千円

#### ② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社は、ゴルフ場を経営する関連会社である氷見観光開発株式会社に対して貸付を行っております。

関連会社は実質的な債務超過であるため、持分法会計に関する実務指針に基づき、投資有価証券をゼロとし、投資額を超える部分については貸付金を減額しております。また、実質的な債務超過持分相当額は貸付金の期末残高を上回りますが、貸付金には担保が付されており、当社の損失負担額は、貸付金の期末残高から担保の処分見込額を控除して算定しております。

当該担保の対象資産はゴルフ場の土地建物であり、担保の処分見込額は不動産鑑定士による鑑定評価額を利用しております。

鑑定評価額は、ゴルフ場から生じる将来の収支予測を基礎とした収益価格を重視して評価されておりますが、将来の収支予測における一日当たり来場者数、一人当たり単価、売上総利益率及び還元利回り等の重要な仮定には不確実性を伴うため、実績が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において長期貸付金を追加で減額する可能性があります。

#### 4. 連結貸借対照表に関する注記

(1) ① 担保に提供している資産

建物・構築物及び機械装置	2,066,555千円
土地	4,697,177千円
投資有価証券	87,595千円

② 上記に対応する債務

短期借入金	100,000千円
1年内返済予定長期借入金	1,167,917千円
長期借入金	2,859,271千円

(2) 減価償却累計額 10,848,951千円

(3) 受取手形裏書譲渡高 67,026千円

#### 5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度の末日における発行済株式総数

普通株式 2,615,400株

(2) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年9月25日 定時株主総会	普通株式	51,923	20.00	2020年6月30日	2020年9月28日
2021年2月10日 取締役会	普通株式	38,942	15.00	2020年12月31日	2021年3月10日

(3) 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年9月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	51,921	20.00	2021年6月30日	2021年9月29日

## 6. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については主に銀行借入れや社債発行によっておりますが、設備投資計画の状況により銀行以外の金融機関（リース会社等）による金融調達も行う方針であります。デリバティブは、実需に伴う取引に限定して実施し、投機的な取引は行いません。

#### ② 金融商品の内容及びリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び貸付金は、取引先の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されているものがあります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、3か月以内の支払期日であります。

借入金、社債は、通常の運転資金や設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、支払期日に支払いを実行できなくなるリスクに晒されております。償還期間については、決算日後、最長で5年となっております。

重要なデリバティブ取引は、行っておりません。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### (a) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権及び貸付金について、経理部門において取引先の債権回収を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

##### (b) 市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握し、関係する役員へ報告する体制をとっております。

##### (c) 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

営業債務や借入金、社債及びその他有利子負債は、流動性リスクに晒されておりますが、当社総務部において、適時、資金繰計画を作成・更新し、資金利用の効率化と金利負担の軽減を図っております。

#### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年6月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（(注)2参照）

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
① 現金及び預金	2,381,201	2,381,201	—
② 受取手形及び売掛金	2,114,843	2,114,843	—
③ 投資有価証券 その他有価証券	943,269	943,269	—
④ 長期貸付金	167,861	167,861	—
資 産 計	5,607,176	5,607,176	—
① 支払手形及び買掛金	979,940	979,940	—
② 短期借入金	161,000	161,000	—
③ 長期借入金（１年内返済予定分含む）	6,052,904	6,085,469	32,565
④ 社債（１年内償還予定分含む）	1,000,000	996,328	△3,671
負 債 計	8,193,844	8,222,738	28,893

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

- ① 現金及び預金ならびに ② 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

- ③ 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

- ④ 長期貸付金

長期貸付金は、帳簿価額を回収可能価額で評価しているため、当該帳簿価額を時価としております。

負債

- ① 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

- ② 短期借入金

短期借入金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- ③ 長期借入金及び ④ 社債

これらの時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	1,424,618
預り保証金	882,470

- \* 1 非上場株式につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。
- \* 2 預り保証金は主に、チューゲキ株式会社各取引先が不動産を賃貸する際の預り敷金であり、返還の時期を算定することは困難であることから、合理的にキャッシュ・フローを見積ることが難しいため、時価開示の対象としておりません。

## 7. 賃貸等不動産に関する注記

### (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、東京都及び富山県において、賃貸用の土地及び施設を有しております。

### (2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：千円)

連結貸借対照表計上額	時価
6,015,199	6,997,603

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、主要な不動産については、不動産鑑定士の鑑定評価、その他については、路線価に基づき評価しております。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産 3,720円92銭
- (2) 1株当たり当期純利益 151円48銭

## 9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 10. その他の注記

該当事項はありません。

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### ② その他有価証券

###### (a) 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

###### (b) 時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15～38年

機械及び装置 10年

##### ② リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とするリース期間定額法を採用しております。

なお、該当する取引はありません。

##### ③ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当期末において発生していると認められる額を計上しております。

###### (a) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

###### (b) 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、翌期に一括費用処理することにしております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税は、税抜きの会計処理を行っております。

2. 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度から適用し、個別注記表に（会計上の見積りに関する注記）を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(1) 関係会社長期貸付金

① 当事業年度の計算書類に計上した金額

氷見観光開発株式会社に対する関係会社長期貸付金 2,391,600千円

上記に対応する貸倒引当金 △2,246,600千円

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社は、ゴルフ場を経営する関連会社である氷見観光開発株式会社に対して貸付を行っております。

関連会社の実質的な債務超過額は貸付金の残高を上回りますが、当該貸付金には担保が付されており、貸付金に対する貸倒引当金は、貸付金の期末残高から担保の処分見込額を控除して算定しております。

当該担保の対象資産はゴルフ場の土地建物であり、担保の処分見込額は不動産鑑定士による鑑定評価額を利用しております。鑑定評価額は、ゴルフ場から生じる将来の収支を基礎とした収益価格を重視して評価されておりますが、将来の収支予測における一日当たり来場者数、一人当たり単価、売上総利益率及び還元利回り等の重要な仮定には不確実性を伴うため、実績が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において貸倒引当金を追加で計上する可能性があります。

#### 4. 貸借対照表に関する注記

##### (1) 担保及び対応する債務

###### ① 担保に供している資産

建物	197,643千円
土地	1,243,754千円
投資有価証券	406,280千円

###### ② 上記に対応する債務

短期借入金	100,000千円
1年内返済予定長期借入金	696,336千円
長期借入金	1,139,604千円

##### (2) 減価償却累計額

5,978,578千円

##### (3) 関係会社に関する金銭債権又は金銭債務

売掛金	12,223千円
買掛金	223,422千円

##### (4) 債務保証

F K K ツアーズ株式会社	30,000千円
北陸日本海油送株式会社	80,000千円

##### (5) 受取手形裏書譲渡高

187,317千円

#### 5. 損益計算書に関する注記

関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

##### 営業取引

売上高	61,556千円
営業費用	1,389,601千円

営業取引以外の取引 14,142千円

#### 6. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の数

普通株式 19,331株

## 7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

### 繰延税金資産

事業税	5,795千円
投資有価証券評価損	68,205千円
退職給付引当金	243,880千円
貸倒引当金	684,763千円
役員退職慰労引当金	31,985千円
その他	28,782千円
繰延税金資産小計	1,063,412千円
評価性引当額	△773,898千円
繰延税金資産合計	289,514千円

### 繰延税金負債

固定資産圧縮積立金	27,119千円
その他有価証券評価差額金	106,793千円
株式交換差益	74,287千円
繰延税金負債合計	208,200千円
繰延税金資産の純額	81,313千円

## 8. 関連当事者との取引に関する注記

関連当事者の名称	氷見観光開発株式会社
関連当事者と当社との関係	持分法適用関連会社
議決権の所有割合	直接 24.73% 間接 2.41%
取引の内容	運転資金の貸付

### 取引金額

当期貸付	15,000千円
当期回収	20,000千円
期末残高	
長期貸付金	2,391,600千円

(注) 1. 長期貸付金については、再建支援のため無利息としております。

2. 2,246,600千円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において70,000千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産	2,556円26銭
(2) 1株当たり当期純利益	110円30銭

10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

11. その他の注記

該当事項はありません。

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。